



第4回令和5年度佐倉路地裏探検隊探索  
もう一つの佐倉道&裏道・実蔵院・臼井城址・

令和5年7月19日（水）



# 佐倉路地裏探検隊

## 1. 月待塔の種類比較表

月待塔の種類比較表

- 1 行事 ; 特定の月齢の日に仲間が集まり、飲食を共にしながら月が出るのを待ち経典(23夜塔の場合は法華經觀音教誦品; 觀音教)を唱えて月を拝み、安産祈願、悪靈追放、子育て祈願等を行う
- 2 月齢の数え方 ; 新月を月齢0とし、月齢15で満月となります(月の満ち欠けは15日に必ず満月には名r田主14日、16日で満月になる場合もあります。旧暦の15日の夜(月齢15)を十五夜、13日の夜(月齢13)を十三夜、二十三日の夜(月齢23)を二十三夜と呼びます
- 3 月待の歴史 ; 江戸時代(1603~1868)から大正時代まで當まれた民間信仰です。佐倉市小竹の西ノ作の集会所では今でも子安觀音講が実施されています。最近は年配者が大半で時に40~50歳程の旧家の若奥様が参加されています。毎月の月齢日に開催されたり、1・5・9・11月の月齢日に開催する場合もあります
- 4 佐倉市の月待 ; 市内では、十九夜塔が7割程度、次に二十三夜塔が2.5割程度、残りは十三夜塔、十七夜塔、二十三夜塔、二十四夜塔等が見られます。北総地域ではほぼ同じ傾向です
- 5 月待塔の種類

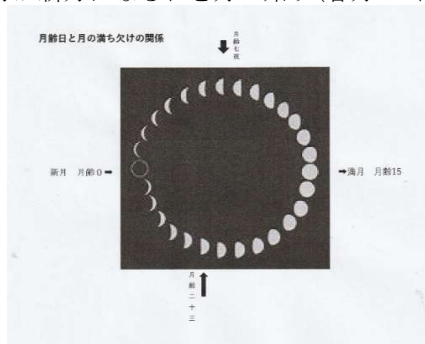
No	月待塔種類	旧暦日	像立者	刻像仏(本尊)						特徴	
1	十三夜塔	旧暦9月13日の13夜に行う月待の記念として造立した塔	13日念仏講中	虚空藏菩薩							十三夜塔、十三や供養塔等と刻む文字塔や虚空藏菩薩の刻像当がある。稀に地藏菩薩の刻像塔もある
2	十四夜塔	旧暦14日の月待記念として造立した塔	14日念仏講中								14夜念仏、14日念仏と刻字されるが、塔の造立は少ない。利根川中流域では団子を月に供え念仏を唱えた
3	十五夜塔	旧暦8月15日の15夜に行う月待の記念として造立した塔	15夜念仏講中	大日如来	阿弥陀如来	薬師如来	觀音菩薩	地藏菩薩		虚空藏菩薩	刻像と文字塔があるが文字塔が多い
4	十六夜塔	旧暦16日の月待記念として造立した塔	16夜念仏講中	大日如来	阿弥陀如来	聖觀音	如意輪觀音	地藏菩薩			関東北部の栃木・茨城・群馬で行われた。刻像と文字塔がある
5	十七夜塔	旧暦17日又は旧暦8月17日の17夜に行う月待の記念として造立した塔					如意輪觀音				茨城・千葉・新潟・岐阜・静岡・愛知・兵庫・山口・愛媛・福岡・香が、鹿児島などで行われたs。文字塔と刻像塔がある
6	十八夜塔	正月・5月・9月・11月の旧暦18日に餅をついて月に供える月待の記念として造立した塔					如意輪觀音				東北地方で若者の間で行われた。塔も東北地方に多い。「十八夜塔」「十八夜供養塔」等という文字塔が多く、刻像塔は少ない
7	十九夜塔	旧暦の19日の月待の記念として造立した塔である。	19夜講中、女人講中、子安講中等				如意輪觀音				女人講・念仏講である。所謂子安講といいい安産祈願である。「十九夜塔」「十九夜念仏供養」等と刻された文字塔と如意輪觀音の刻像塔がある。山形・福島・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉などに分布。佐倉市では当初17夜塔が主流であったが後に19夜塔が主流になった。変わった理由は特に存在せず。23夜・26夜塔も偶に見受けられる



8	二十夜塔	旧暦20日の月待記念として造立した塔である		阿弥陀如来	聖観音	如意輪観音	勢至菩薩	地藏菩薩			宮城・茨城・栃木・千葉等に分布。文字塔と刻像塔がある「廿日待」「廿日齋」「二十日夜待」等の文字塔もある
9	二十一夜塔	旧暦21日の月待記念として造立した塔である	21夜講中、女人講中、子安講中、念仏講中	如意輪観音							塔には「二十一夜供養」等の文字塔と如意輪観音の刻像塔がある。群馬県北部に多く、千葉・東京にも分布
10	二十二夜塔	旧暦22日の月待記念として造立した塔である	22夜講中、女人講中、子安講中、念仏講中	如意輪観音	准胝観音						「二十二夜」「二十二夜念仏供養」等の文字塔と如意輪観音等の刻像塔がある。群馬・埼玉を中心に宮城・福島・新潟・山梨・長野・岐阜・愛知にも分布
11	二十三夜塔	旧暦23日の月待記念として造立した塔である。毎月23日、正月、5月、9月、11月の23日等地方によって異なる	23夜講中	勢至菩薩							他の月待塔は地域により分布が異なるが、23夜塔は日本全国に分布。文字塔と刻像塔がある。「三夜待」「三夜供養」のように二十を省略して刻字される場合もある。文字塔には他に「念三夜」「月天子」と刻字されている塔もあります。東京都杉並区新高円寺の妙法寺では二十三夜堂があり毎月24日堂の開帳をしていますが、講は既ない？二十三夜尊大月天王を祀り、毎年10月23日に二十三夜尊大祭が行われている
12	二十六夜塔	旧暦26日の月待記念として造立した塔である。正月26日、7月26日、毎月26日等地方によって異なる		愛染明王							文字塔は「二十六夜塔」と刻まれた文字塔や愛染明王の刻像塔で、関東地方以北を中心移分布。江戸では旧暦7月26日の月を阿弥陀三尊の出現（月光の中に弥陀・観音・勢至三尊が出現）として拝んだ。二十六夜待は高輪から品川にかけて盛んに行われた
13	七夜塔	旧暦17日から23日迄の「七夜待」の記念として造立した塔		七夜待の各夜の本尊は ①千手観音	②聖観音	③馬頭観音	④十一面観音	⑤准胝観音	⑥如意輪観音	⑦勢至菩薩	文字塔と刻像塔がある。刻像塔は七夜の本尊が独立して七体刻まれたものと、1基に纏めて刻まれた物がある。文字塔には「七夜待供養」等と刻字されている
14	月待板碑	日付では23日が多い		十三仏	阿弥陀三尊	勢至菩薩					中世に造立された板碑のうち月待信仰によって作られたものは月待板碑と呼ばれている。関東地方南部に約140基が分布。殆どが青石塔姿である。埼玉県富士見市の物が造立が一番古い（嘉吉元年・1441）

旧暦とは、月が新月になる日を月の始り(各月の1日)とし、では約354日となりますが、太陽暦の1年より約11日短い為、3月の次に閏月を入れて調整します。

## 2. 月齢



参考；令和5年6月暦

日	月	火	水	木	金	土	日
Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday
			1 水無月	2 木無月	3 金無月	4 土無月	5 日無月
6 月無月	7 日無月	8 月無月	9 日無月	10 月無月	11 日無月	12 月無月	13 日無月
14 月無月	15 日無月	16 月無月	17 日無月	18 月無月	19 日無月	20 月無月	21 日無月
22 月無月	23 日無月	24 月無月	25 日無月	26 月無月	27 日無月	28 月無月	29 日無月
30 月無月	31 日無月						





### 3. 月待塔の本尊一覧表





#### 4. 散策マップ



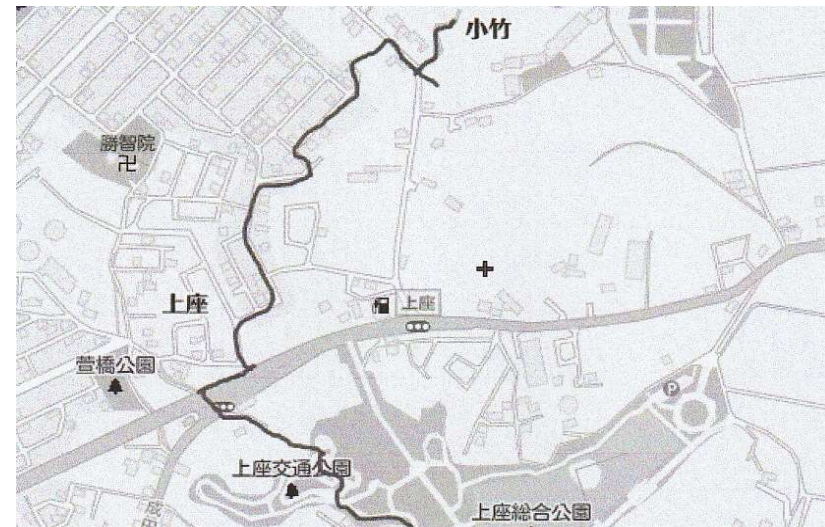
全体コース1 (ユーカリが丘駅北口出発)



全体コース2 (白井城址公園解散)

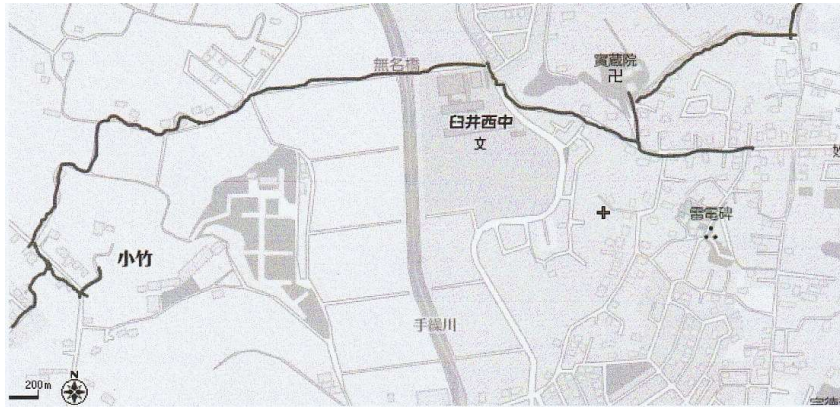


個別コース①



個別コース②

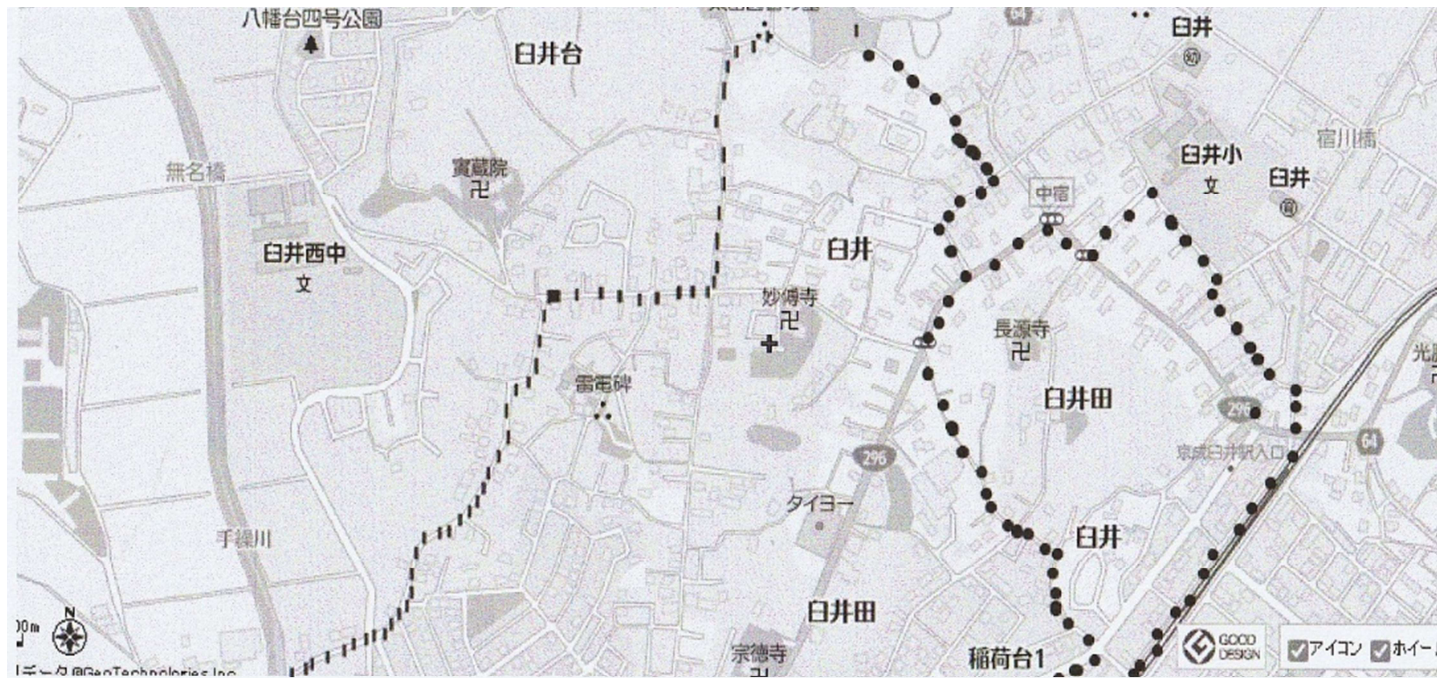




個別コース③



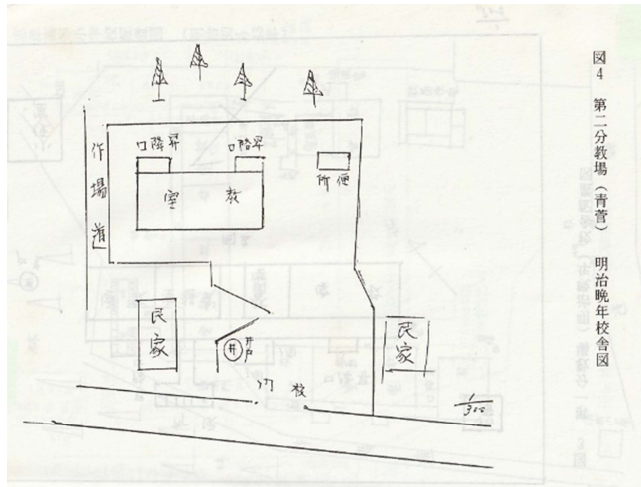
個別コース④



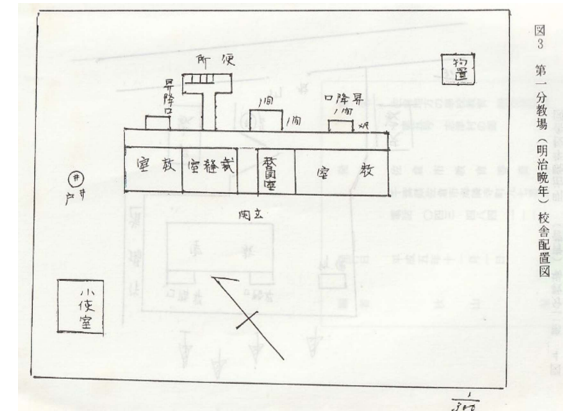
個別コース⑤（白井城址からの戻りコース；京成白井駅へと大名宿・上座公園経由京成ユーカリが丘駅へ）



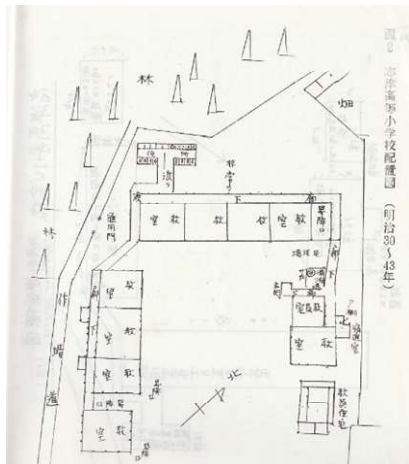
5. 志津小学校旧本校と第一分校（上志津）と第二分校（青菅）の校舎は配置図



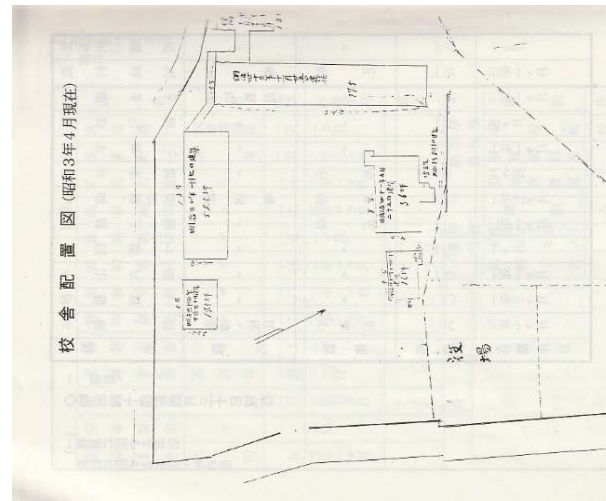
明治晩年の青菅第2分校



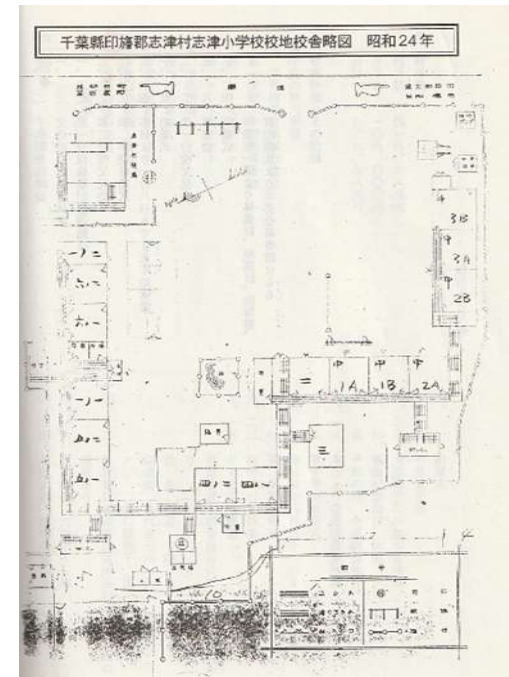
明治晩年 上志津第1分校



明治30~43年頃の志津高等小学校



昭和3年志津尋常高等小学校



昭和24年志津小学校



## 地区スポット説明

1	2	3	4
京成ユーカリが丘駅	駅前北口付近	銅造「 <sup>ヨロコビ</sup> 歓び」水の <sup>カガヤ</sup> 耀き・森の <sup>カガヤ</sup> 輝き	井野 一里塚公園
			
<p>昭和53, 4年頃北口ロータリーはトタンの塀に囲われていて、5, 6軒の立退かれた家の土台がまだ残っていました。付近の型は志津駅迄歩くか、上座バス停より志津駅迄(現在の小泉産業よりやや志津駅寄り)バスで通勤していました。当時の大手企業ではバス乗車距離が近すぎるという事でバスの定期券は自己負担が多かったたつたのでは? 通常は自転車(志津駅線路沿いの駐輪所)で、雨天の場合はバスか歩いてでしょうか? 自家用車の場合は勝田台迄行き特急で(東葉高速はなく=H8年、総武快速はS47年東京止まり、S52大船止まり、S63・11浅草線の西馬込迄開通) 当時は京成電鉄は頻繁にストライキ実施。その時は四街道や津田沼迄行きました。京成・国鉄ともストの時は陸の孤島と化しました</p>		<p>日展会員久保浩により平成10年造・左側に「歓び 木の葉の着物を着た大山祇」、右側に「歓び 水の衣を纏った天水波女」の2体が雄々しく建てられています。久保浩氏は神戸市生まれで佐倉市在住。体育館前の「西村勝三翁像」、JR彫刻通りの「風の姿」長嶋茂雄の市民栄誉賞記念品「銀製 祝球」等が佐倉市内に設置されています</p>	<p>一里塚公園です。この左手木には大きな辻切(大辻)が枝・幹に巻き付き祀られています。何故か今年に大辻は痩せて貧相なのが残念です。村への病魔・疫病の侵入を祈念して祀られるものです。むらの入口に祀る大辻、個人宅の玄関先に祀るのが小辻です。井野地区は8カ所の大辻があります。八千代市下高野、市川市国府台、船橋市中野木・楠ヶ山等では蛇の辻切り、上総・安房地方では”道切り”、”綱つり”等の同じ趣旨の催しがあります</p>
			



5	6	7	8
<p>坂(仮称 一里塚坂 いちりづかさか )</p>	<p>一里塚跡</p>	<p>坂(仮称 原ヶ作坂 はらがさくさか)</p>	<p>旧上座村役場・志津小学校跡</p>
			
<p>約8度、95m程の坂です。この坂は一里塚経 由で井野の旧道に繋がる道。反対側は上座 の交通公園上の成田街道にですが、この国 道を渡り旧辺田道經由交通公園經由熊野神 社經由で旧上座本村から宝樹院の下の道へ と繋がります。イオンが開店し土地の整備・開 発で旧道が無くなってしまいました</p> 	<p>「一里塚」に続く次(前)の一里塚がありません。佐 倉市&amp;八千代市の地図を拡げ、この一里塚を起点 に半径4kmの円を描いた上で、個人的推測をすると 「加賀清水」から一里、あるいは逆にここから加賀清 水へ一里ではないかと推測しました。成田街道から 旧井野道(千手院への道)から北志津保育園經由 で旧上座道經由旧成田街道へ</p> 	<p>一里塚からユーカリのアクアの裏側を3本 目の上り坂をさします。きおにお道が旧道 で交通公園ないの旧道(現在はありませ ん)において熊野神社につながる道に繋が ります。約5度、265m程です。小字から命 名しました</p> 	<p>旧志津小学校、志津村やくば、派出所等があった場 所ですが、その一角に消防団器具庫があります。元 は明治20年4月井野尋常小学校(小竹教場と下高 野教場)と上志津小学校の2校が開校。明治25年8 月18日井野尋常小学校を志津北尋常小学校に改 称し千手院に置いた。昭和29年佐倉市が誕生し市 立志津小学校誕生。第一分校(上志津)は昭和22 年頃第1分校、第2分校を開校(昭和24年共に降車 を修・増築した。第1分校は上志津小学校になり(昭 和36年閉校)第2分校は昭和52年3月末廃校。志津 小本体は昭和42年7月23日建物落成し現在地に移 転。志津小から分離し開校したのは青菅小学校、小 竹小学区と上志津小学校がある。第2分校校舎は冷 和2年7月20日国有形文化財に登録される</p> 



9	10	11	12
<p>志津村道路元標 (どろろげんぴょう)</p>	<p>元岩井商店・木のや花店<sup>キ</sup></p>	<p>もう一つのさくら道(成田街道)</p>	<p>志津小の2記念碑</p>
			
<p>明治6年12月10日太政官達にて、各府県に道路里程調査を命じました。各街道、枝道の距離の測定し里程標を立てて道路の正しい情報把握を命じ道路元標の位置を定めました。大正8年には道路元標が法制化されました。東京市の道路元標の位置は日本橋の中央にあります。全国道路の起点になります。電柱の横に志津村の道路元標があります。当然真向いに志津村役場がありました</p>	<p>志津村の成田街道沿いに、今もあるのが(閉店。建物のみ残っています)岩井商店は戦前から営業していた地元の食品・酒等を販売していた店舗です。木のやは、花屋(主に生花)でこの前は旧郵便局通りの入口右側にありました。その後上座の現在地に移転</p>	<p>一里塚からのもう一つの道で上座交通公園の辺田道に繋がり、熊野神社經由宝樹院の下を通り上座公園東口、上座の風邪の神や上座公園東入口の前を經由して成田街道に繋がります(手繰不動尊前)。この道を”もう一つの佐倉道”と称します。佐倉道と刻字のある道標があれば、この説が正しい事が証明されるのですが。それ迄は仮説でしかありません</p>	<p>手前の碑文は「志津村記念碑」で明治26年1月20日造立の志津村が出来た調書のむらの上記用(戸数・人口・土地内訳、下志津村内に陸軍大砲射撃学校等があった事等を刻字。後方の碑文は「志津村売役場改築記念碑文」です。元々旧役場敷地内に在ったものが小学校の移転に伴い、信志津小学校の給食室入口付近に掘り出されていて二十数年放置されていたものを昭和60年12月26日市当局に善処を請願してやっと現在地に設置されました。できうるなら、その全文と訳文を説明板を設置。志津村にとり重要な碑文なので市民に広く案内していただきたいものです</p>
			



13

志津小の金次郎



懐かしい三宮金次郎像です。顔の表情が今ひとつ雑なのが気に入りませんが。市内には桜小学校と志津小学校の2校のみ金次郎像が残っています



14

坂(仮称 六所坂  
ろくしょざか)



小字から命名しました。11度程、約190m程。志津小学校の横から上座公園の西側入口への急な坂です



15

稲荷神社



意外と見落しがちな稲荷神社です。下に鉄パイプ製の鳥居があるので、気付いたら是非お参り下さい



16

熊野神社



本殿は銅板葺き八幡造一坪。由緒は不明。文化元年(1804)本殿建替え記録あり。西暦1400年頃ではと謂われています。昔は熊野大権現と呼ばれていたが、明治元年に熊野神社に。祭神は伊弉諾・伊弉冉です。本殿の左奥に阿夫利神社と八坂神社があります。本殿の後ろ側に八室に区切られた連棟があり、金毘羅大権現。三峯神社・古峯神社・疔瘡神社・天御柱・國御柱神社・子安神社・足尾神社が祀られています





17	18	19	20
阿夫利神社(右)と八坂神社(左)	上座公園と交通公園	坂(仮称 縁結び坂 えんむすびざか)	縁結び神社と道祖神社
			
<p>八坂神社は祭神は素戔嗚命、毎年7月に五穀豊穡・疫病退散を祈願した「天 主祭」が盛大に行われます。真中には阿夫利神社で祭神は大山祇命(おお やまずみのみこと)通称「石尊様」で、7月27日が例祭です。大山阿夫利神社 は神奈川県伊勢原市大山にあり、江戸時代以前は大山は祭神は石尊権現 で山岳信仰と修験道信仰が混合した神仏混合でした。十一面観音を本地仏 としました。大山寺の本尊が不動明王なのでよく間違えられます。他方大山 阿夫利神社は延長5年(927)の『延喜式神名帳』に記載の相模国延喜式内13 社の1社でした。江戸期以前は神仏混合時代で本来の祭神の脊損大権現が 祀られていましたが、明治元年の廃仏棄釈・神仏分離で大山寺は廃寺・石尊 大権現(山頂の壘石)から大山祇大神(おおやまつみ)が祭神となりました。 現在は本社は山頂の奥社(大山寺)。前社は高麗神;たかおかみ)、中腹の下 社(阿夫利神社拝殿)という位置づけになります。摂社では奥者に大天狗、前 社に小天狗が祀られています。大山詣りは大山寺➡阿夫利神社・下社➡大 山山頂(阿夫利神社・奥社 元石尊大権現=大山寺)の順番で参ります</p>	<p>昭和58年開設され約3万坪(9.9Ha)あり桜の名所です。そ の中の一部分が市制30年記念として開設された交通公園 です。元は水田で埋め立てて造られた公園。桜並木や植 木は当初は樹高1Mm程の苗木。40年も過ぎると桜ト ンネルが出来るほど。交通公園の一角にホテルの飛び交う 場所もあります。遊具も変わり、芝生公園になり、子供より 老年が多く訪れる場合が多くなりました。近隣にも新住宅 地が出来、子供達もそれなりにいるのですが、外出遊ぶよ りは家の中、ショッピングモールに行くのがおこなったよ うです。昭和45年～55年程の住宅整備が進み住民も増 え、小学校も増築・増級、新学校等もありましたが、現在 は状況が変わってきました。西志津小学校在校生より井 野小学校が令和5年に多くなりました。志津小学校も青 菅、小竹小学校等が分離し新校となりました</p>	<p>交通公園から約20m上部の成田街道沿い縁結び神 社迄の坂道です。約12度、94m程です。樹々の中の 坂道です</p>	<p>元は成田街道沿いの家具製造・販売店の三差路に 巨木で幹が二分かれしている状態を縁づくり、家庭 円満等の祈願した新しい石祠があった。縁結神社と 刻字されています。その祠下に道祖神の小さな石塔 があります。本来はこの場所は道祖神があり、後に 縁結神が祀られたというのが本当の所か</p>
			



21	22	23	24
<p>小竹五郎の墓</p>	<p>小竹城址1</p>	<p>小竹城址2</p>	<p>坂(仮称 中内坂 なごちざか)</p>
			
<p>正面に「千葉六家之正跡 小竹五郎之墓」右面には「明治廿六年癸巳十一月穀旦 先祖為菩提高橋弥右エ門建立」とあります。小竹五郎は臼井城の市場の小竹城に居城し千葉氏の族臣で小竹五郎高胤と謂い、後に里見氏に属し、やがて帰農して高橋姓にあらためた。この付近は高橋氏の家が多い。臼井城の周辺には志津(大口)・師戸・岩戸・小竹の支城を臼井一族が城を構えた。因みに「穀旦」は吉日の意。千葉六家とは「千葉氏、相馬氏、武石氏、大須賀氏、国分氏、東氏の六党と円城寺氏の七党が一般的であるが、小竹氏は見当たらず・・・</p>	<p>臼井城は、千葉氏の本佐倉城の前線基地として重要な城であり且つ交通の要所であった。本佐倉城では一度も合戦がなかったが、臼井城での合戦が数度あった。</p> <p>①文明11年(1479)1月太田道灌の命により太田図書と千葉自胤による臼井城攻め(7月5日臼井城落城)千葉自胤は臼井城に城代を置いたが千葉孝胤に奪取した(臼井城方)</p> <p>②永禄4年(1561)臼井久胤の時上杉謙信の小田原攻めに呼応した里見勢の上総大多喜城主 正木大膳に攻められ一旦落城し、臼井久胤は結城城の結城晴朝を頼って臼井城を脱出。永禄7年(1564)に千葉氏の家老であった原胤貞により臼井城が奪還された</p> <p>③永禄9年(1566.3月)後北条一族の打倒を目指して関東に出陣した上杉謙信と里見義堯・嘉博による臼井城攻め(臼井城方の勝利)</p> <p>④原氏は本郷生実城を元亀元年(1570)里見勢により落城。以後臼井城は原氏の本拠となる</p> <p>⑤天正18年(1590)小田原北条討伐戦で直側の房総別起動隊に敗れ、徳川譜代の酒井家次が3万石で入封。文禄2年(1593)状内より出火し灰燼。酒井家次の移封により慶長9年(1604)廢城</p>		<p>通し番号No14。小竹地区No2、9度程、185m程大字より命名。小竹地区は中内、郷、西ノ作の3地区に大きく分かります。坂の上は小竹幼稚園のほぼ前に、下は無明橋經由臼井西中学校横に繋がります(そのまま行くと実蔵院、八幡台へ)</p>  
			



25	26	27	28
<p>ナゴチ 中内の石仏群</p>	<p>無名橋</p>	<p>坂( 仮称 山崎坂 やまざきざか)</p>	<p>実蔵院1</p>
			
<p>中内の集会所の横に多数の十九夜塔です。一般的には旧暦19日の月待の記念として建てられたもので通常女人講・子安講等の女性の団体が集まり飲食を獲りながら教を唱えて悪魔祓いを行う民間数強行事です。小竹地区ではこの中内地区を含め現在でも行われています</p> 	<p>手繰川に架かる橋の名前が無いという事で無名橋(むみょうばし)としようとしています。手繰川には多くの無名橋があります。坂名と同じく橋名も名付けたいです。小字から「大原下橋(おおはらしたばし・橋は小竹地区にあります)」西中側には銀杏の大木が並んでいて木陰になる為、時にタクシーやトラックの運転手の休憩場所になっています</p> 	<p>約10度、278m程。臼井西中の前から実蔵院入口・大名宿經由新坂に出る坂です。小字より命名しました。”やまざきしたさか”です</p>  	<p>”新義”真言宗寺院で山号は大澤山建徳寺と号し新義真言宗の壇林で大和の長谷寺に属す寺院。本尊は不動明王。創建年代は不明。山号の「建徳寺」は何を指すのか？建徳年間(1329～1331)に創建されたという歴史家もいるようだが古文書がない以上推測も無理。</p>  



29	30	31	32
実蔵院2	道標	坂(仮称 登城門坂 とじょうもんざか)	太田図書の墓
			
<p>山門右手には享保2年造の秩父巡拝塔で聖観音像、宝暦6年(1756)造の19夜塔で如意輪観音等19夜塔、如意輪観音、子安観音像が並んでいます。一体一体像容、衣、手の位置、胸、子供の表情等は是非見て下さい</p>  	<p>正面に子安観音像 右面には安政4丁巳(1857)8月吉日と刻字。土台正面右側には「右ハさくら」正面左側には「左ハくすのき」土台右面、左面位はそれぞれ4名づつ名前が刻字されています。さてここにある楠とは八幡神社の楠ではなく、洲崎岩の更に左側の山王社の楠を意味します。八幡神社の楠より山王社の楠の方が大きかったようです</p>  	<p>約5度、186m程のだらだら坂です。臼井城の登城門に通ずる坂の為命名しました。一名”暗闇坂”とも謂れています。実蔵院の横から登城門跡經由T字路を左折すると、星神社へ、手前を右折すると空堀や臼井城の二の丸・本丸への入口に通じます</p> 	<p>文明10年(1478)上杉方の太田道灌は古河公方方の千葉孝胤(のりたね)を境根原(柏市)の戦で破り配送した孝胤は一族の臼井氏が守る臼井城に逃げ込みました。翌文明11年(1479)1月太田道灌の命により弟の太田図書助資忠と千葉自胤が臼井城を包囲しましたが、城の守りが固く約半年かけて落としました。しかしその間に太田図書初めた3人も討死し、図書の墓が現在地にあります。実際は供養塔でしょう</p> 



33	34	35	36
星神社	白井城入口&空堀&二の丸	白井城址土橋と空堀	白井城址本丸1
			
<p>地元では「妙見様」として親しまれています。祭神は天御中主命（あめのみなかみのみこと）。屋根の月と太陽の千葉家家紋。境内には拝殿、本殿、子安観音堂、山車そして藪椿の巨木が拝殿裏にあります。観音堂の後は棕木の巨木が。拝殿の上には通常とは別の注連縄が飾られています。千葉氏第3代千葉介常兼の三男白井六郎常安が永久年間（1113～1118）白井庄に居を構えた時守護神として城内鬼門後に創建。白井氏滅亡後は白井の守護社となった。明治初年の神仏分離により現在の星神社となった。妙見菩薩は北極星や北斗七世を神格化したもの</p>	<p>城址公園を入る手前に空堀、入口を入った所がⅡの丸跡。その先に空堀があり、土橋・虎口・土塁を通ると本丸が。本丸跡からは印旛沼、白井宿等が見渡せます。初日の出、花火等もこの本丸跡からみられます。また全体的に桜の名所でもあり観光客が多くお見えになります</p>	<p>城に設けられる土橋は、橋ではなく堤です。堀をめぐらす中で、出入りの為の通路を細い土手として残したものです。木橋に比べ直ぐ撤去出来ない為守には不利。その為白井城では虎口や土塁を設け守りを掘京した。一方木橋は撤去が釜生ではあるが製材技術が低かった当時に大型に大変コストがかかるデメリットがあった</p>	
 			



37	38	39	40
<p>臼井城址2</p>	<p>臼井城址の石垣？</p>	<p>印旛沼遠景1</p>	<p>臼井宿遠景1</p>
			
	<p>本当に本当??これを臼井城の石垣の残骸?石の大きさ、積み方等とも石垣とは言えず且つ大きさ・石質も大いに疑問です。本来下総一体は石が少ない土地で屋敷・敷地を復元を願います。勿論時代から考えて本丸等は勿論なく館でしかないですが</p> 		
			



41	42	43	44
<p>白井宿遠景2</p>	<p>大名宿通り</p>	<p>成田みち・江戸みち道標</p>	<p>紺屋 ヨシダ工場跡</p>
			
	<p>最近級成田街道沿いの大名宿町内は、民家の建替えも進みかかっての趣きが無くなり残念です。佐倉城の城内の商家・蔵等旧宅の保存が不十分で城下町の風情が無くなると同様に、白井城・白井宿も同様に趣きが無くなり残念です。この地区も未だかつての趣きが残っている民家・敷地等少しは残っているのは是非とも保存してください。そして佐倉市の観光資源と是非指定して下さい</p> 	<p>大名宿の道標で、江戸と成田へのそれぞれの道標です。正面には「右 な成田みち」右面「左 江戸みち」左面「西 さくば道」裏面「文化三丙寅 伊勢屋半重郎」と刻字。1806年造立です。この辺りは昔は城内。白井城最後の城主酒井家次が高崎に転封し、白井城は廃城しました(慶長9年=1604)より石神地区=イトビア団地、旧中台砦跡=八幡台2丁目付近等からの移住が相次ぎ、また佐倉道がこの台地上を通るようになってから、次第に宿場町に変わり、成田山不動信仰とともに隆盛を極めた。宿屋、店屋は白井宿に集中したが、台町のこの通りも小さな店やが存在した。屋号を調べると良く分かります</p> 	<p>紺屋の一つのヨシダ屋の工場跡です。左側向上の梁にかつての紡錘機用歯車の一部がのこっています。柱は補足、中には枝木も使用。床は現在コンクリートになっています。是非白井木綿の存在は歴史的に残す為、この建屋も佐倉市産業遺跡にお指定し保存をお願いしたいです。白井地区には谷大谷高野が2ヶ所、志津駅近くに1カ所計4鯉雨情あったようです。は昭和46年ヨシダこんやを大谷こんやは昭和50年閉鎖されました。もんぺ、手甲、脚絆等を作っていました。東北からの女工さんが工場内の部屋にねとまりして頑張っていたようです</p> 
			



45	46	47	48
<p>インガントウ 白井の石敢當</p>	<p>成田街道</p>	<p>浅間社(中の浅間様)</p>	<p>地藏堂跡の石仏</p>
			
<p>沖縄本島やその周辺諸島に多く点在し薩南諸島や奄美諸島を含む鹿児島県にもかなり点在する。大分県臼杵には天正3年(1575)造立のも仁尾が日本最古。「市中に徘徊する魔物は直進する性質があります支柱を徘徊する魔物は、T字路や三叉路等に突き当たると向かいの家に入る。その為T字路や三叉路の突き当たりに石敢當を設け魔物の侵入を防ぐ魔除けとして石敢當が設置されました。魔物は石敢當にあたると砕け散ると謂れています。佐倉地区に4基、白井地区に1基計5基市内におあります。一部は先祖から言い伝え亡きまま設置されていたり、沖縄での観光土産で持ち帰ったりしたが2基あります</p>	<p>成田街道から妙覚寺(江戸時代は「薬師様」という事で遠方よりの参拝者が多かったようです)に下りる入口右側に半欠けの道標があります。丁度ゴミ集積所の左電柱下になります 正面には「薬(師仏)」右面「○○○郎右エ門」左面には「(明治8)年4月吉日」とあったようです</p> 	<p>手繰坂を上り切った右奥の高い所にこの宣言様があります。個人宅の屋敷守でもある為赤い社は高台を横にしてあります。社の中はみられません。手繰りの浅間社は現在の白井西中近くにあります。成田街道筋(西側)を向いていたが、いつのころからか東に向けてありました。これはある人がお客様を馬に乗せて送迎していたが、この前で3回落馬した為古い師に聞くと女が馬に乗ったままこの社の前を通った為とわかり、浅間社を東にむけたとの事。子供が七つになると手繰の浅間様についてこの中の浅間様にもお参りしました</p>	<p>左は庚申塔と首無し地藏尊があります。手繰り地藏堂跡で社はいつの頃に無くなったのは明治前に廃寺となった為です。正徳5年(1715)11月吉日造立(右面と左面に刻字)正面は青面金剛。3臂2鳥3猿。邪鬼はありません。見秘湯で無い刻像で邪鬼がないのは少し珍しいです。土台には右面24名、左面に18名の名前が刻字されています。右側の地藏尊の首がないのは、廃仏希釈の時に無くなったと謂われています。手繰坂より訪れるのと、こも石仏の正面側に田久里岩方面抜ける小道(旧道)があります</p>
			



49

タグリザカ(ヤエモンザカ)  
手繰坂(別名 弥右衛門坂)



約13度、120m程で、かつては未舗装で薄暗い坂でした。別名弥右衛門坂とも呼ばれていました。佐倉城敷地を連隊が使用するようになるとこの急な手繰坂た新坂の上り下りは馬は勿論軍用馬でも一苦労。明治22年に現在の宗徳寺前の新成田街道が開設されました。大正15年12月京成電鉄の酒々井・津田沼間開通、総武鉄道の佐倉駅開通は明治27年7月20日です。佐倉の街並、交通・道路、商店街、産業等も大幅に変わりました



50

手繰不動尊と石仏群



手繰不動尊です。元は法(輪)性寺の不動堂になります。鏡宝寺六崎十善講82番札所で、その横には15基の馬頭観音群があります。この馬頭観音群は元みずほ銀行ユーカリ支店の道路反対側の上座本村への入口三角地にありました。因みに上座の馬頭観音群は宝樹院の下側の辺田道より一段高い所にあります。2ヶ所にあった事になります。この法(輪)性時の住職が井野梵天塚の近辺で入定(場所は特定出来ていません)し、梵天塚の後ろにありました。近隣の千手院の僧良業一空のお墓(八千代市宮内の辺田道より一段高い所で入定)と間違われ千手院の墓地の一番奥に移されてしまいました(一空の御先祖の方には間違っている事を伝えましたが)現在は宝樹院が管理(その前は印西市師戸の満福寺が管理)しています。境内にあった巨木1本切るのに関係者の承諾をとるのにご苦労をされました。不動堂の修理、堂宇の中の不動尊や大日如来の修理の手続きをされていますが、現在もご苦労をされています(すでに2年間はかかっています)



51

咳の神と上座公園



意外とご存知がないと思いますが上座公園東口への入口手前右手にあります。実はこの上の荒れた竹林の中に発砲スチールを社代わりに石仏があります。竹林の中を何とかかき分けていけば到達出来ます。成田街道若しくは横の畑側から検討を付けて竹藪に入って下さい。咳の神は西部自然公園入口の”風の木(ちゃぶく婆さん)”等各地にあります



52

ユーカリが丘駅北口



所謂ユーカリが丘地区の表側です。抗争マンションは現在駅前に5棟あります。さらに1棟を成田街道沿いに建築される計画もあります。他に駅前にはさらに見直し予定です。モノレールは赤字続き。維持費も大変なのでバスに切り替えされるでしょうか？現在モノレールとバスの併用運行がさrています。構想マンションも空き部屋があったり、一戸だでも空家が増え子供が減り老人が急増。分譲地も完売までに至りません。年寄りには少し不便になって来ています

